

檢視した 307個体の中ではA斑が発達し、3つの橙色斑がつかなくなったような個体は千種町三室山産の1頭だけで、その他は橙色斑の発達は弱く2ヶ~3ヶの個体がほとんどである。また、橙色斑が1ヶの個体は19産地の中ではなく、一宮町草木と生野町柄原では0型が見られた。これは307個体中わずか3頭である。

橙色斑が2つの個体と3つの個体では2つが62.9%と比率で多い。珍しいところでは後翅表後角部に橙色斑が現れた個体が杉ヶ沢で2頭、福知で3頭ある4)。また、後翅中室端に現われた個体が1頭見られた。

〈参考文献〉

1. 藤岡知夫(1972)図説日本の蝶 ニューサイエンス社 東京
2. 藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑 講談社 東京
3. 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑 大坂
4. 花岡 正(1981)メスアカミドリシジミ雌の斑紋 てんとうむし(7):39

(S28:Masami Hirohata 〒671-22 姫路市 )

### フタスジカタビロハナカミキリ

花 岡 正

兵庫県下の新採集地の状況を報告する。

春に出現するギフチョウの様に産地が限定され、発生期間も短かく美麗なので人気の高い大型のハナカミキリである。

①産地：扇ノ山、赤西溪谷、音水溪谷、氷ノ山山系で採集されているが、筆者は藤無山山系でも採集した。1985年5月12日、15:00位に宍粟郡波賀町道谷、藤無山山系にて2♂♂1♀をヤマシャクヤクの花の中から採集した。

②出現期：5月初旬より、標高の低い赤西溪谷から音水溪谷、藤無山、氷ノ山山系へと出現してくる。

6月初旬まで見られる年もある。

③採集状況：ヤマシャクヤクに訪花中の個体が多いが中には葉上、根際、飛行中(飛ぶ早さはカナブン位いで羽音も高い) 変わった所ではタニウツギのビューティングでも採集されている。ヤマシャクヤクの花の中では交尾中のものなどペアで採集される個体が多い、最高9頭まで採集した。

(S.19:Tadashi Hanaoka 揖保郡太子町 )

## 初冬の蝶の一日 (セイタカアワダチソウの花に集まる蝶)

近 藤 伸 一

1985年11月3日加古川市北在家の空地で1日中蝶の観察を行った。観察場所は加古川市役所の南に隣接した縦10m横100m程度の広さの野外駐車場で、中央部に砂利が敷かれ、ヨモギ、ヌスビトハギ、芝、ススキ、イタドリ、ギシギシ、ニワホコリ、スズメノヒエ、セイタカアワダチソウ、カタバミ等が周囲をとりかこむように繁っていた。当日は快晴で風もなく、セイタカアワダチソウがちょうど満開で、この花に蝶が1日中吸蜜に訪れた。

コンクリート建築物やアスファルト道路に覆われた市街地では、このような空気が昆虫にとって大切なオアシスとなっている。

20分間隔でこの空気を1周し、観察した蝶は7種延べ152匹であった。時間ごとの蝶の活動の様子を飛翔中、吸蜜中、静止と3種類に分け次表にした。キチョウとチャバネセセリが吸蜜に特に熱心であった。蝶の種類ごとに、活動時間帯、吸蜜の時間帯が少し異なるようである。

蝶の活動の様子 1985.11.3.

	ヤマトシジミ	ヘニンジミ	モンシロチョウ	キチョウ	モンキチョウ	カタタハ	チャバネセセリ	計
10:00	△3 △1	×1	○2					6
:20		×1	△2	△1	○1		○2	6
:40	○5 ×1			△2			△1	8
11:00	○1	×1		△2			△2 △1	5
:20	×2 ×4		△1	△1			△2	6
:40	△2		△1	△2			△3	7
12:00	○6	△1	○2 △2	○1 △1	○1			13
:40	○4	△1	○1 △1	○1 △1				10
13:00	○1	△1	○2 △1	△1			×2 △2	7
:20	○4 ×2		○2 △2	○1			○1 △4	8
:40	×1	×1	○3	○1			△3	7
14:00	○2	○1	○1	○1			×1	6
:20	○1	△1	○1	○1				5
:40	○6 ×1		○1 △2				×1	8
15:00	○7							7
:20	○2 ×2					×1		5
:40	×1							1
計	51 15	1 4	17 11 10	6 11 0	2	1	7 18 6	81 28

(S62: Shinichi Kondo 神戸市 )